



解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもって前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

2025. 9月第682号

発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

バビロンへ捕囚として連れ去られたエコンヤ(エホヤキン)王をはじめ、高官らに向けて、エレミヤは一通の手紙を書いた。彼らにとって最大の関心事は、「いつ解放されるのか」「いかにしてそれが実現するのか」「誰が助けに来るのか」という点であった。

しかし、その切実な問いに対して預言者の手紙が告げたのは、驚くほど現実的で、時に残酷とも響く言葉であった。——「家を建てて住み、園に果樹を植えてその実を食べよ。妻をめぐり、息子、娘をもうけ……そちらで人口を増やし、減らしてはならない。」さらに、憎むべき異教の国バビロンのために、「平安を求め、その町のために主に祈れ」(エレミヤ29・4-7)と命じたのである。

彼らは本国に手紙を送り、「なぜエレミヤを取り締まらないのか」(エレミヤ29・27)と不満を訴えている。そして、これがバビロンへの最後の抵抗となり、やがてエルサレムは陥落し、すべては灰燼に帰した。人々は殺され、生き残った者も最後の王ゼデキヤと共にバビロンへと連れ去られた。かくして、ダビデ、ソ

瞑想

家を建てて住み、園に果樹を植えて
その実を食べなさい

(エレミヤ29:5)

主幹牧師 榎本 恵

された後も、パレスチナとの争いは絶えることなく、今日に至っている。一体いつになれば、神の約束された平和の計画は完全に実現するのであろうか。ジェノサイドとも呼ぶべき虐殺が続くガザを思うとき、また世界各地での戦争、さらには被爆国である我が国においてさえ核武装が声高に叫ばれる現実、直

の唯一の術であるのか。しかし、私はそうは考えない。——「家を建てて住み、園に果樹を植えよ」(エレミヤ29・5)。このどうしようもない世界にあって、確かな土台を据えて家を建て、荒廃した園に再び実を結ぶ木を植える。それは私自身のためではない。私の後に続く者のためである。災いの計画ではなく、「将来と希望を与える」(エレミヤ29・11) 平和の計画のためである。

1950年代、アメリカで激しい人種差別と非暴力で闘ったキング牧師が、インドのガンジーを知る契機となったのは、クリスチャンアシュラム運動の創設者スタンレー・ジョーンズ博士の著書『ガンジー』であった。この本の余白に、キング牧師は直筆でこう記している。——「これこそが、アメリカにおける黒人の自由を実現する道である」と。友よ、道はいまだ半ばである。しかし、これこそが神の国を実現する道であると信じ、今、真理の家を建て、平和の果実のなる木を植えようよ。

「第28回福岡一日アシラム」感謝 ラビリンスを歩く巡礼者

西本 美恵子

猛暑が続く中、「第28回福岡一日アシラム」は7月21日(祝)日本基督教団中部教会で行われました。

榎本恵先生と康子姉が来福下さり、福岡・佐賀の地から12名の兄弟姉妹が集まりました。恵先生が毎月第2月曜日に開催下さる「福岡聖書教室」(3時間)でも大きな恵みをいただいています。今日はたっぷり一日！前日から遠足を待つ子どものように楽しみにしていました。

主題聖句は「葉が出始めると、それを見て、既に夏が近づいたことがおのずとわかる(ルカ21:30)」です。

巻頭言には、「世の終わりが近いかどうか分からないが、それは葉

が出始めると夏が近づいたことがわかるようなものです。私たちは、その時を見極めるために心の目を研ぎ澄ませ、今をどのように生きていくのか―それこそが、アシラムの日々の祈りと瞑想です。『はつきり言うておく。すべてのことが起きるまでは、この時代は決して滅びない(ルカ21:32)』と力強く記されています。

「福岡一日アシラム」はいよいよ、恵先生の祈りと導きの許に始められ、み言葉を通してたくさんのことを教えられました。

「アシラムセンターの美しいラビリンス。2万個の石を集めたこの聖なる道を歩むことは、エルサレムへの巡礼の旅を巡ることと同

じである。道に従ってまっすぐ歩むなら、その中心に辿り着く。そしてそれが世界を変えていく」「巡礼者と観光客の違いは、観光客は好奇の目を持って旅するが、巡礼者は精神的よりどころ、この世にはない天国を作ってくれる神を探し求め命をかけて歩んでいく」と語られました。

民族や宗教などお互い信じるものが違っても、人として大切な「平和や良心、希望」に気づき一致する時、それが世界を変えていくのです。どんな現実社会にあっても、それが平和への道だと気づかれました。

私の心にも細くて頼りないけど、時々輝くラビリンスがあります。それを忘れず、み言葉に導かれ、神のみ許に歩んでいく巡礼者でありたいと思いました。

そして、アシラム

センターのラビリンスを思い出すと更に元気が出ます。形として存在することはすばらしいです。人の心は強くないので心を寄せる徴(しるし)があることは大切です。目

に見えて、そのことを思い出し、忘れないでいることができます。そしてまたいつの日か、アシラムセンターのラビリンスを歩むことを楽しみにしています。

神はいつも寄り添って、私のそばを歩いて下さいます。神と共に同じ道を歩む巡礼者であることの幸せを教えられました。兄弟姉妹と共に恵みと

励ましに満ちた一日を過ごすことができ、心から感謝です！
(日本バプテスト連盟福岡新生キリスト教会)(毎月の福岡聖書教室にもご参加)



福岡中部教会にて。西本姉は写真後列中央。

四国アシュラム感想

島崎 英一郎

誤解を恐れずに言う
と、今まで私にとって
のアシュラムとは逆境
に立たされた時のみに
現れる救いの光景で
あったように思いま
す。今回の参加は二回

目でしたが、前回いつ
参加したのか覚えてい
ないまま、その時の家
長さん（今回も同じK
姉妹でした）に教えて
いただくという始末で
した。

昨年の十一月から訳

む、静聴と祈りのラビ
リンス・ウォークは私
にとってまさに恵みの
時となりました。

「葉が始めると、
それを見て、既に夏の
近づいたことがおのず
と分かる。」（ルカ21..
30新共同訳）

今回の主題聖句です
が、「見て」「おのずと
分かる」という営みを
大切にしたいと思いま
す。アシュラムの帰
り、電車に乗って田園
風景をながめていた

いました。
帰りがけに同じファ
ミリーのI姉妹が「明
日は教会に行ってくだ
さいね」と声をかけて
くださいまし
た。来年の四
国アシュラム
で彼女にこう
返事ができた
らしいなあと思
います。「あ
の時からずつ
と教会に通っ
ているんです
よ」。

「神は苦し
む人をその苦
しみによつて
救い 彼らの
耳を虐げに
よつて開く。」
（ヨブ記36..
15聖書協会共
同訳）

あつて教会を
離れて霊的に
弱り果ててい
た私でした
が、フアミ
リーの交わり
の中で不思議
な力を与えら
れました。恵
牧師が説教の
中で「観光客
と巡礼者は違
う」というこ
とを語られま
した。今回、
何かを求めて
参加したわけ
ですが、皆さ
んと共に歩

最後になり
ましたが、三
島真光教会の
方々をはじめ
め、ご準備く
ださったス



第52回 呉教会アシュラム（日本アライアンス呉教会にて）長い歴史…

タツフの皆様感謝申
し上げます。
（Zoom聖書と学ぶ
会々の友）



『御霊を消してはいけません。』
呉教会アシュラム、心より感謝
しています。目の前の奉仕に追
われ、精霊様を無視していたこ
とに気づかされました。婦人
会より

アシュラムセンター 創立 50 周年記念企画

始まりの頃を想いつつ… 保郎師召天15周年記念文集『向こう岸へ渡ろう』より

◆「忘れ得ぬおハガキ」 清水トシ(1996.9.17召天)

榎本先生にお会いしたのが1971年9月。先生が願われた京浜アシュラムが今年で17回目。教会一日アシュラムは20回を迎えます。ハガイ書2：8のおことばが実って、老人ホームは開園11年目を迎えます。イザヤ書54：2-3が今私達の前に開かれつつあります。

第2回教会アシュラムの時に忘れられないおハガキを頂きました。(1973年)

「略……その所で私のために祈って下さい。又第7回今治アシュラムのために祈って下さい。略……最近私の密室が祝されて居ります。略……4月1日から立ち上がりたいと願って居ります。此の間『向こう岸へ渡ろう』という主のお声をききました。たとえそれがどんな事になりにしましうとも、主がこのように呼びかけて下さったのですから命がけで立ち上がろうと決心し、今そのために祈りを積んで居ります。静かな時を十分に持ち、みことばに満たされて、此の国に祝福が述べ伝えられるために小さな御用でも果たさせて頂ければ、私の命等問題ではないという思いにさせられました。榎本保郎」

(9月27日第51回の南町田一日アシュラムが開かれます！50年守り継がれた方々、そして主に感謝です。51回目は、恵師初のご奉仕。お祈りお願い致します。)



題字
川添 暁子姉(同運営委員)

◆「在りし日のお祈りの姿を見て」 湯野静子

私の脳裏に今も焼き付いている先生の姿があります。祈りの姿です。

台湾に出発される朝、祈禱室で膝をさすりながら、心をこめて祈りをささげておられました。いつもより声を大きくして、聖霊を求め、サタンと闘うかに私の目に映りました。

ある時は、お子様の頭上に手を当ててお祈りされる姿を見ました。父親の慈しみの溢れる思いをこめながら、祈っておられました。

アシュラムセンターの早天祈禱会で聖書の霊的な解き明かしをされる先生は、時々ユーモアがあって楽しくて笑い声がありました。前日から青年の集会があれば、翌朝の祈禱室は老いも若きも膝をつき合わせて座っておりました。暖かい雰囲気包まれておりました。

恵さんが、高校に合格された時、嬉しくて畳に手をついて感謝のお祈りをしておられたことも、平素のご両親の信仰姿勢がお子様の心に焼き付いているからだ、私には思われました。



センターにて、アシュラム誌発送作業後の貴重な写真。ほぼ中央和子母。右前の眼鏡の方が湯野姉。

(当時日本基督教団札幌北部教会)

過日、札幌聖書教室に希望と平安をいただきました。感謝しております。今後も札幌に於いて、教室が開かれますことを願っています。アシュラムセンターのお働きに、主の豊かな祝福がありますように…。

主、共に存りて。

増井啓子



湯野姉(104歳!)



春代姉

久々の札幌聖書教室！多くの方々が、ご参加くださいました。感謝！佐々木春代姉は、翌日滋賀に移住！

子ども会のため、皆様からの祈り、ご献金、食の差し入れ等お支え頂きありがとうございました。追ってご報告、感想等、次号などに。

シメオンの風4 「未来の声が響く庭」

2025年8月某日、シメオン黙想の家の庭には明るい子どもたちの声が響き渡りました。第1回子どもアシュラムが開催されたのです。ドキドキ、ワクワクしながらその日をむかえました。10歳から2歳までの11名の子どもたちとその保護者の方々が参加され、楽しい時間を過ごしました。宿泊や食事は「アンナ祈りの家」で行われ、屋外の楽しいアクティビティはシメオンの庭で行われました。

大きなもみの木が木陰を作り、ゲートから続く木々が涼しい風を運んでいます。子どもたちは讃美歌をうたいながらラビリンスの前で手をつなぎ、そしてそれぞれが好きなように石の道を歩きました。芝生の上では裕子さんが準備してくださったヨーヨー釣りや、献品していただいたスイカ割りにと楽しい歓声が上がりました。

シメオン黙想の家の建物はもう90年を超えていますが、この庭がたくさんの子どもたちの声で満たされたのは、いつ以来のことでしょうか？わかっているのはここがシメオン黙想の家として用いられるようになってからたくさんの子どもたちを迎え入れたのは、この日が最初の日であるということです。アシュラム運動が今年50周年を迎える記念の年に、次の50年を指し示すような子どもたちの元気な姿、明るい声がこの場所に響いたということに神様の愛を感じました。幼い魂が、この場所をまた新しいアシュラム運動の場として用いてくれる日が来ることを祈ります。

市橋 恵子



シメオンの庭、
ラビリンスに子ども達の声！

いえじま 雑記27 「祈りの月」

8月は死者たちのことをよく思い出します。特に今年は、テレビや新聞で戦後80年の特集を目にしますから、そういう方も多かったのではないのでしょうか。僕の住んでいる伊江島に関係することと言えば、「木の上の軍隊」という映画が全国公開されました。80年前の伊江島での戦闘の最中、ガジマルの木の上に隠れていた2人の日本兵の物語です。それから2人は2年間で戦争が終わったということを知らぬまま、木の上で暮らしました。ぜひ来年の沖縄ツアーは、この映画をご覧になってからお越しください。

もっと個人的なことと言えば、8月は祖母と、大叔母の後宮松代さんが亡くなった月でもあります。祖母は3年前の8月15日に、松代さんは1年前の8月17日にそれぞれ亡くなりました。8月はそんな、とてもお世話になった2人のことを思い出します。そういえばちょうど松代さんの命日に、偶然、彼女が最後まで通っていた甲西伝道所でお話しする機会が与えられたのは、不思議なことでした。松代さんが一番前の席で聞いているようで緊張しましたが、2人の祈りはいつまでもなくなるようです。9月には訳書が出る予定です。どこかでお見かけした際は、どうぞ手に取ってみてください。(初の読書会開催、感謝！)

榎本 空（ノースカロライナ大学院生、沖縄伊江島在住）



↑猪瀬和子姉（広野祈りの家、'22.9.20召天）お嬢様ご夫妻ご来訪。和子姉宅の紫陽花の苗木をシメオン庭にと。感謝！



11月の記念会にも！



↑7月末、尾崎幹三兄、宝塚より、バイク走らせ、恵姉のプレートに花束を！8月1日恵姉召天日

あとがき

まだまだ厳しい暑さが続いている。先日ある方から聞いたのだが、80年前に8月15日の京都の気温も36度もあったそう。昔はもっと涼しかったのかと思いきや、暑さは、ほとんど変わらなかった。今のようにはクーラーなどない時代は、体感温度はもっと暑かったのかもしれない。時代は進歩したようで、実はあまり変わっていないのかもしれない。80年前の戦争が終わった日、日本人は何を思ったのだろう。もしかすると私たちは、この夏の暑さと変わらないように、何も変わっていないのかもしれない。ただ時代に翻弄され、その日その日をただ生きていく。そんな人生なのだろうか。しかし、そこに必ず神の時がある。主イエスキリストの時のような。それは、全く新しいものなのだ。その新しさを、私たちは得ているのだ。たとえ、日々は同じことの繰り返し返のように思えても、私たちには新しくされた命があるのだ。

80年前の出来事と思う時、今また新しい戦前へと向かうのではと思えるようなこの時も、私たちは、新しくされたものであることを信じよう。必ず主は新しいことをされるのだから。

(恵)



子ども達とたくさん笑いあえた楽しい時間となり感謝でした。ドキドキでしたが、皆さんの前で無事に踊れて嬉しかったです。長峰更紗（サラヤン→ハワイアンと呼ばれ）



あなたの歩みと照らす光の道

浮城二九一〇五

榎本和子

(二〇二三・八・十五召天)

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。直前の変更の場合あり！

【主な問い合わせ先】0748-33-4030 アシュラムセンター
【Zoom・インターネット等 問い合わせ先】080-3983-8140

9月の聖書教室など

2(火)	大阪聖書教室（大阪クリスチャンセンター AM10:30）
5(金)	阪神ミニアシュラム（神戸聖愛教会 PM1:00）
6(土)	加古川祈りの家（フリーメソジスト加古川教会 PM1:00）
8(月)	福岡聖書教室（福岡中部教会 PM1:30）
17(水)	みんなのカフェちいしば聖書入門講座（京都・伏見区深草 PM1:30）
22(月)	静岡聖書教室（旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30）
23(火)	東京聖書教室（御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30）
23(火)	しみじみする会（桜美林大学 荊冠堂チャペル PM2:30）
28(日)	ちいしば牧師記念チャペルタ礼拝（PM5:00）
10/3(金)	阪神ミニアシュラム（神戸聖愛教会 PM1:00）

9月のアシュラムなど

14(日)	第6回 ユースリトリートアシュラム	0748-33-4030
15(月)	奉仕者 アベル門宣教師	アシュラムセンター
15(月)	第32回 岐阜アシュラム 大垣ルーテル教会	0584-22-1576
	奉仕者 榎本 恵師	名和公一兄
19(金)	第48回 新潟アシュラム	080-6755-1208
20(土)	奉仕者 榎本 恵師	吉澤昭男師
24(火)	第13回 日光オリーブの里アシュラム	0748-33-4030
25(水)	奉仕者 榎本 恵師	アシュラムセンター
27(土)	第51回 南町田一日アシュラム	042-796-1521
	奉仕者 榎本 恵師	南町田ちいしば会 佐々木みどり師

10月のアシュラム予定

9(水)	修道場アシュラム（現在4名申込）	0748-33-4030
10(金)	奉仕者 榎本 恵師	アシュラムセンター
11(土)	修道場アシュラム	0748-33-4030
13(月)	奉仕者 榎本 恵師	アシュラムセンター
13(月)	第49回 山陰アシュラム	080-5493-9242
	奉仕者 山陰アシュラムメンバー	遠藤誠一師
21(火)	第29回 埼玉一日アシュラム	090-2919-3811
	奉仕者 秋山 信夫師	秋山信夫師
25(土)	第6回 水戸(教会)アシュラム	029-248-6751
	奉仕者 榎本 恵師	水戸バプテスト教会

11月以降のアシュラム予定

11月3(月)～5(水)	第50回 京浜アシュラム
11月22(土)	天上の友を憶える日礼拝
11月24(月)～26(水)	アシュラムセンター創立50周年記念 第20回 国際正義・平和アシュラム in 滋賀
2026年1月12(月)～14(水)	第51回 年頭アシュラム

献金のお願ひ（特に創立50周年のために！）

皆様のお祈り、お支えに感謝いたします。
引き続きお祈りとご献金をお願い申し上げます。

キャッシュレス献金はこちらのQRコード
または「オンライン献金.com」と検索ください。
アシュラムセンター運営
記号番号 01050-6-53772



みことば



シメオン庭の
ミョウガ

日本キリスト教団 豊島岡教会
南花島集会所 牧師 江口公一

6章「あなたがたも同じように心を広くしてください。」(Ⅱコリント6:13)

和解とは仲直りのことである。それは自分を造った神との関係において、そして神が同様に造った隣人との関係において、神によって自分と隣人が根本的に変えられる事によって神の平和が成し遂げられる事である。

私達は和解の困難さを思い知って嘆く。和解には正義に対する双方の考え方と利害関係を調整して克服する見識と折衝力を備えた有能な指導者が必要であり、人の強さによって困難を乗り越えてようやく達成されると考えるだろう。しかし、パウロが語る和解とは聖書に証言された神による本来の和解である。それは、人の力ではなく、人の「弱さ」の中でこそ発揮される「神の力」によって実現されていく。そこで問われるのは、十字架につけられたキリストを自分の中に迎えて、地上の生涯をキリストと共に生きているかである。

冒頭の「あなたがたも同じように心を広くしてください。」という言葉もこの事を伝えている。「心を広くしてください」とは、単に見識を広めて包容力をどれだけ高められるか、という事ではない。神によって心を広くされなさい、である。私達は人生を急ぐあまり、癒しが不在のまま調停を結んだり諦めたりもする。これは私の狭い心である。イエス様は「狭い門から入りなさい。」と言われた。これは人の罪とその結果の苦しみを十字架で負って歩まれたキリストの狭い道の門である。しかし、その心は広い。そのように、あなた方も神に心を広くされてキリストと共に和解の道を歩みなさい、とパウロは言ったのである。

パウロが歩んだ和解の道は、自分が思い描いた通りにならない苦難の、忍耐を要する嘆きの道のりであった。しかし、「神の力」によって、偽りのない愛、真理の言葉を与えられる希望の喜びの道のりであった。私達が和解の務めを果たす時も、苦難に嘆く事は避けられないだろう。しかしそれが、敵の為にも十字架につけられて祈るキリストに従う故の苦難であるならば、嘆きは見過ごした自分の罪を悔い改め彼らと共に御国を継ぐ為に神から与えられた特別な恵みなのである。



「誕生日の方への祈り・早天祈禱会にて」信仰に立って歩んでこられたお一人お一人でございます。いつもその前にあなたを置いてみことばに聴従していく、この喜びを味わう人生となりますように。(詩54)